

2.総合心理学科

総合心理学科の学びの基本は、社会科の教職課程を有していた人間科学科の「幅広い視点から人間の心や行動を理解し、現代社会や文化への理解を深めることを目指す学際的な教育内容」を継承したものとなっている。複雑な現代社会や人間の心を理解するために、これからの心理学は高い心理学の専門教育に加え、社会学や教育学、宗教学といった人文・社会科学的知識や自然科学的視点を持つことの意義が更に高まっていると考えられ、これを実現することが学科の重要な教育理念の一つとなっている。本学科教職課程では、心理学および関連するさまざまな領域を横断する豊かな知識と技能を修得して「人間」や「社会」の現実を総合的に理解する学科の学びを基礎としつつ、自己理解と他者理解とを結びつけて他者の多様なあり方を尊重し、思いやりを持って生徒に寄り添いつつ、学校の営みに貢献できる教員の育成を目的とする。この目的を実現するための養成カリキュラムとして、社会科の内容に関する基礎的概論科目(「日本史」「外国史」「地理学」「法学」「政治学」など)をはじめ、生徒の深い理解に必要とされる臨床心理学・発達心理学・教育心理学領域を中心とした心理学の専門科目とのつながりを生かし、さらに人間理解のための文化や社会、宗教学や倫理学などの科目(「文化人類学」「社会学概論」「家族と社会」「宗教社会学」「生命倫理学」「死生学概論」など)を段階的に設置した教育課程を編成しており、社会科教員としての専門性の育成を計画している。このような計画のもとで本学科が育成を目指す具体的な教員像は、人間存在を全人的に理解し心理学の専門知識を以って生徒を援助し、子どもの心と発達の深い理解に基づいて、学校や社会における様々な課題解決ができる教員である。さらに、本学科の「文化・社会・心理コース」の専門科目の学修を通して、日本や世界の文化・歴史および現代社会について多角的視点から学び、現代社会の人間や社会に関わるあらゆる問題の理解を深めた社会科教員像である。繰り返すが、本学科の中学校・高等学校教諭一種免許取得課程は、心理学的知識と技能をもって生徒の心の理解とケアに対応でき、且つ社会科教員として世界の歴史・文化や現代社会の多様な問題群についての専門知識と深い理解を有し、教育現場で実践することができる教員の養成を目指している。免許取得し卒業する学生は、様々な問題を有する現代の教育場面において、現場のニーズに十分に応え貢献することが可能であると考ええる。